

## 古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

### 古河城お茶屋口跡に建つ陽明堂



退職後に商売を始めようと考えていたので、建物はどんなものが良いか検討していたところ、日本家屋を得意とする設計家がいると紹介されたので、会ってこちらの希望を伝えたと、船柁(せがいは)造りでやろうと説明を受けたので、話をよく聞いて納得のうえで同意した。

お茶屋口になるので、普通の四角い建物よりは良いかと思い決めました。深く考えたわけではないが、「ここにこんな建物を建ててくれてありがたい」ということも聞いたので、これで良かったのかなと思っています。

古河城お茶屋口は、古河藩主土井利勝が日光参詣する將軍や格式の高い大名をもてなすために、茶屋を置いたことに始まるといわれています。また、建物の北側の通りは將軍や格式の高い大名が古河城に向かう際に使用されていたといわれています。

#### 講評

旧街道沿いのまちなみを意識した良質な建物を長年に渡り維持されている点を高く評価します。建築主の想いが設計者によって随所に表現されており、両者の建物への愛着を外観からも感じます。

今後、より一層、建物のメンテナンスや屋外広告物等のサインを景観形成の観点から管理していただければと思います。

## 古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

### お茶の丸太園



江戸時代から続く製茶園の「丸太園」は、太郎兵衛どんと呼ばれ、代々この地域の顔役を務めた「千町地主」のお宅です。古河市東諸川の通り沿いに面し、長く高い板塀が続き大きな漆喰の長屋門と穀物蔵、文庫蔵そして築150年のどっしりと構えた母屋が、茶を買いに来る客を出迎えてくれます。

令和元年初頭から末まで丸太園の蔵群の壁修復を行いました。昔ながらの伝統的な工法で、土壁を塗り漆喰で仕上げ、建築当初の輝く白壁がよみがえりました。蔵の明かり扉に施した「漆喰黒磨」は漆喰のウルシを塗ったような鏡面仕上げで一見の価値があります。土壁は、耐力壁としての役割の他に、調湿と断熱効果に優れ、かつ、自然の柔らかい表情も見せます。木も同じように、自然の仕上げ材で、また、構造材でもありその組み合わせで建屋を造ることは理想的で、日本の建築はこの組み合わせで造られてきました。このような明治初頭の重厚な木造建築群が、十六代・太郎兵衛の号令の下、地元の大工、左官、瓦職人の伝承された手業で修復され整えられています。

丸太園は、さしま茶の製茶業のほかグリーン・ツーリズム体験、ご当地の産物を使った六次産業の加工など幅広く活動するユニークなお茶農家さんです。

#### 講評

建築当初の姿を大きく変えず、代々、維持管理されていることや修理に関わる職人の技術を高く評価します。特に、景観上キーポイントになる長屋門板塀をはじめ、この地域特有の直屋造りとした規模の大きな母屋・土蔵などが庭を中心に配される屋敷構えは見事です。

現在、店舗や工房として広く開放されている様子なので、今後は、建物の建築的価値を多くの人に知ってもらえるよう一層の努力を期待しております。